

ひび割れ算出システム

特長

- ひび割れ調査自体は従来手法と同じなので、現場へはスケッチ用紙を持ち込むだけです。
- 解析処理には汎用品のスキヤナを用意するだけです。特殊な機材は必要ありません。
- 任意に算出範囲を指定できるので、車線毎の算出も可能です。
- 算出結果の成果品は電子データ(図面: SFX(SFC/P21)・DXF・DWG 計算書: Excelデータ)で作成されます。

★ 処理操作の流れ

< 1 >

PAVE-CADより専用のスケッチ用紙を印刷します。

< 2 >

従来手法と同様に、現場でひび割れ状況をスケッチします。

< 3 >

スケッチ用紙をスキヤナで画像化し、それをPAVE-CADでCAD化(ベクタ化)します。

< 4 >

車線情報を与えるために展開図を作成します。

< 5 >

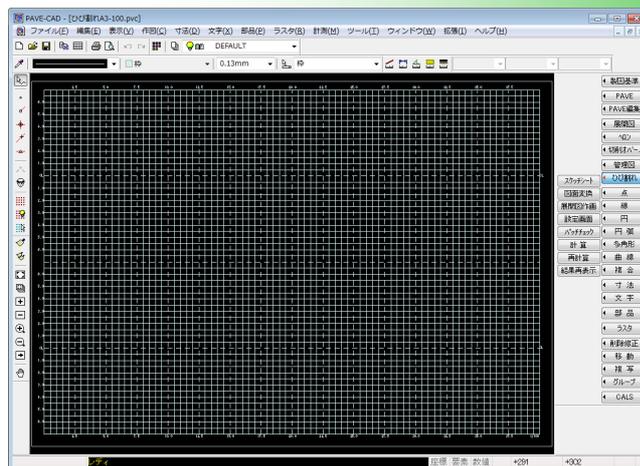
工事情報入力、算出範囲を指定、パッチング指定を行います。

< 6 >

解析処理を開始し、成果品の作成します。

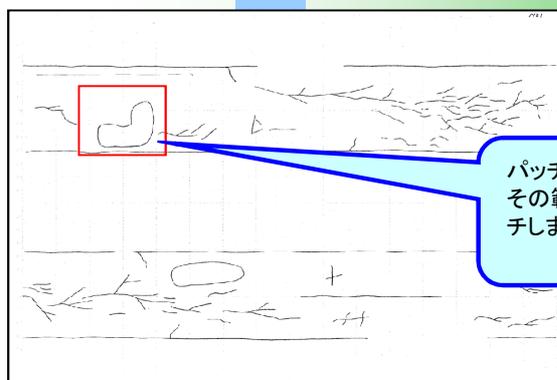
<< 出力書類 >>

- ・データシート
→ 舗装路面のひび割れ測定
(舗装試験法便覧) 準拠
- ・ひび割れ展開図
⇒ A4 ~ 任意サイズ



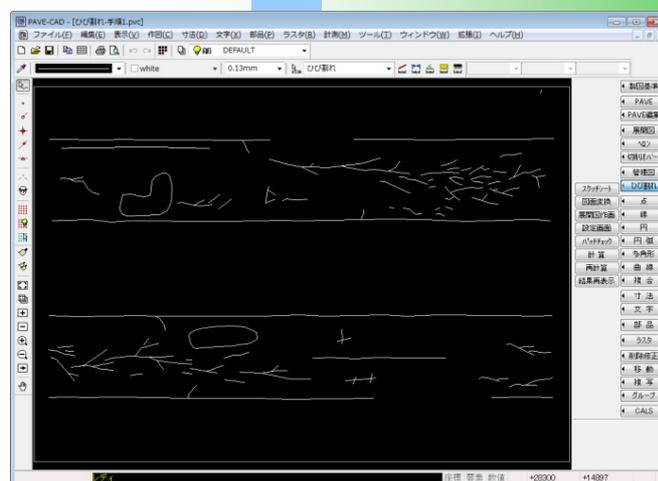
★ スケッチ用紙の印刷

縮尺・用紙ごとに縦横50cmのますを表示したスケッチ用紙を用意しています。



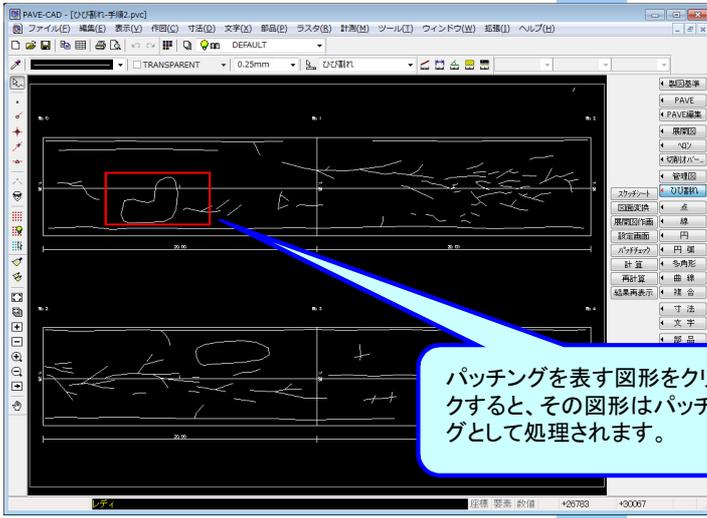
パッチングがある場合はその範囲を囲んでスケッチします。

★ スケッチ用紙のスキヤニング画像



★ スケッチ用紙のCAD化

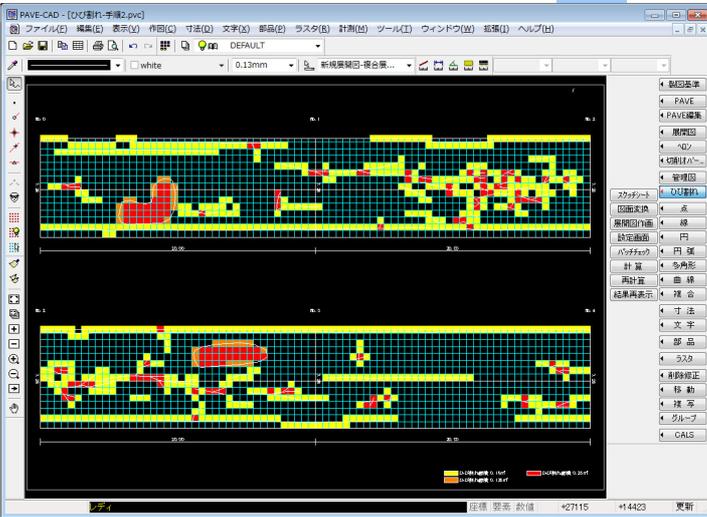
スキヤニングされた図面をPAVE-CADでCAD化します。



パッチングを表す図形をクリックすると、その図形はパッチングとして処理されます。

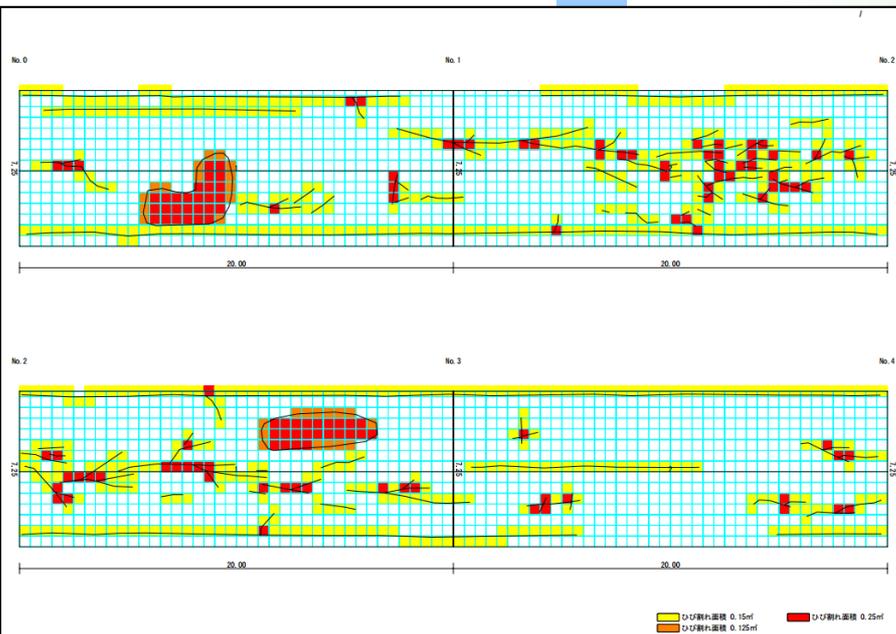
★ 展開図の作画・パッチング指定

単距離情報・幅員情報を与えるため展開図を作図します。また、パッチング要素を指定します。



★ 算出処理後画面

ひび割れ本数(1本・2本)やパッチング面積の割合により50cmますを色分けします。



▲ ひび割れ展開図

図面作成

閉じる 工事情報 展開図設定 AD設定 計算書 印刷 仕様設定 縮尺変更

種類	測点名	単距離	左幅員	右幅員	左分離	右分離	面積	接辺	横移動
1	No.0	20.00	3.75	3.50			145.00	-	-
2	No.2	20.00	3.75	3.50			145.00	-	-

図面名:新規展開図 縮尺:1/100 総面積:290.00㎡

★ 展開図入力画面

単距離・幅員を入力して展開図を作図します。

ひび割れ設定

図面選択: ひび割れ-手順2.pvc

フレーム・レイアウト 集計設定 「割れ」位置別設定 「幅員」位置別設定 詳細設定

集計範囲設定: 集計幅 20 m

開始位置: 0.0 m 終了位置: 0.0 m

左車線集計範囲: 0.0 m

右車線集計範囲: 0.0 m

工事情報: 調査・工事名: ひび割れサンプル工事, 測定距離: 80 m, 測定年月日: 2012年12月20日, 測定者: SAP太郎

測点名作成: 1 No.0, 2 No.1, 3 No.2, 4 No.3, 5 No.4

★ ひびわれ設定画面

算出範囲の指定(縦断方向・横断方向)や工事情報を指定します

舗装路面のひび割れ測定

調査・工事: ひび割れサンプル工事 測定年月日: 2012年12月20日

測定開始: No.0 路面の種類: アスファルト

測定終了: No.4

測定距離: 80 m 測定者: SAP太郎

集計開始点	ひび割れの集計		集計	
	No.0(左)	No.1(右)	No.2(左)	No.3(右)
ひび割れ 0.5 × 0.5 m	63	80	43	37
1本 0.5 × 0.3 m	7	23	37	39
ひび割れ 0.5 × 0.3 m 2本以上	6	22	8	4
ひび割れ面積 (㎡) ①	11,580	19,570	11,930	10,060
ひび割れ 25 cm				
長さ cm				
合計ひび割れ長さ (cm) ②	2	23		
パッチング 0.125 ㎡	4	14		
マス目数				
パッチング面積 (㎡) ③	1,000	7,500		
ひび割れ率 (%) ④	75.0	75.0	75.0	75.0
ひび割れ率 (%) ⑤ (①+②)÷④×100	16.8	26.1	25.9	13.4
ひび割れ率 (cm/㎡) ⑥ (①+②)÷④×100				
備考				

▲ データシート